

令和5年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立桜小学校
実施日	令和6年2月15日

○評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

・「改善策として考えられること等」の欄には、それぞれの質問項目に関して、その改善策として考えられること等があれば記述します。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
目指す学校像	1	学校は、児童にとって通いたい学校となっているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が分担をして、困っているクラスや児童に支援をしている姿があるから。 学校職員は、保護者に密に連絡を取り理解と協力を得ている。 落ち着いた生活が子供それぞれで違う気が最近特に感じる。と言って個々の対策では時間と労力がかかりすぎる。難しいが子供からの話をその時々で聞くことが必要に思う。 学校を楽しみに来ている児童が多くいると感じる。 児童からも家にいるより学校にいたいという声を多く聞いた。 教職員で連携して児童に対応しているから。 本校の児童は、学校が好きと感じている子が多いように感じる。 本校の児童は、学校が好きの子が多いと感じる。 授業が楽しいから学校が楽しいと感じてもらうには、こちらの努力が必要である。ただ、家庭学習等含めた児童個人の努力なしには感じる事が難しいかもしれない。 不登校児童が少しずつ登校できるようになったり、自学級以外にも通える場所や見てくれる先生方がいる環境がある。また、生徒指導全体会以外でも児童についての情報を速やかに共有している。 職員みなさんが、学年学級の境無く児童に声掛けし見守っているため職員同士で児童の事を相談しやすいため、結果として児童が安心できる学校づくりにつながっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ごく少数ではあるが、朝、元気がなく登校して行く子供がいるようです。ほとんどの子供は元気いっぱい登校しています。 参観日や運動会等来迎寺、児童が楽しそうにしている様子をよく見かけるため。 ●先生の評価の上から6段目、学校が好きというより家庭に問題があるのではないかと確認した方が多い。 ●担任以外の先生でも児童を把握してくれていることが多い。 ●保護者のアンケート「子供は学校が楽しい」との答でA,B評価93%と回答していること評価。 ●先生も子供は学校が好きと感じていると評価。
	2	学校は、保護者・地域にとって通わせたい学校となっているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方と関わりがある行事をしたり、学校の様子を学校だより等で知らせているため 不登校児童の保護者も対応に感謝している。 学校側からは、よく児童の様子や教育について発信しており、保護者や地域と積極的に関係を作ろうと努めている。 連絡ノートで家庭と日々の様子や気になることを伝えており、相互連携を取ることができている。 保護者に対して適宜連絡をしているが、学校に協力的ではない家庭や保護者が複数みられる。また、難儀な意見が多く、保護者に対して教育課程や学校の様子がうまく伝わっていない可能性がある。 学校として、保護者との面談の必要があるときには優先して面談を行い、今後の対応につなげている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍も収まりつつある様で、地域の人達との交流行事も少しずつ増やして行けば良いと思います。 ●(教育課程について)どこまで理解されているか疑問。 ●連絡ノートでの家庭との密な連絡評価。 ●学校に協力的でない家庭や保護者が複数いることは改善要。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っているか。(共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童の登校、下校時刻について考え、保護者に知らせているから。 定時退勤の呼びかけがあり、意識が出来るようになった。業務内容の簡略化や縮小化がもう少し進むと、余裕が持ててくる。 数年前から考えると大きく変わったと思う。 職員室で大きな声で愚痴をいう先生がいたり動きやすいとは思わない。 下校時刻を早めたため、月曜の職集の開始時刻を少し早めてもいいのではないかと感じる。 仕方のないことではあるが、勤務時間後等に保護者からの電話や訪問が多く、勤務時間内での対応が難しい。 職員会議や生徒指導全体会などは、勤務時間を超過しないようになったので良い。 日報のシステムがあるのに十分活用されていない。職集での臨時的なつづけが多し、またその後、明文化されていないので確認しようがない事例が多々ある。 業務が超過した、あるいは面談等が伸びた際には調整が出ている。夜遅くまで働く職員は年々減ってきている。 管理職や主任が積極的に声をかけたり退勤をしたりしている。また、業務の分散や軽減などをしている。会議でも、重要な項目をピンポイントに共有している。 学校として進めている働き方改革に、求められているものが追いついていない。焦らずに、じっくりと地に足のついた働き方改革をこれまで同様進めていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●最近登校時間を少しおそくとの連絡があり、かなりのグループが少し遅く登校しているが、今まで通りの時間で登校しているグループもあり、もう一度登校時間の徹底を図ってみてはどうでしょう。 ●男性職員の育休は周囲の理解と協力体制が無ければ実現できないかと思いました。欠員が出た時の補充が無いのはきびしいのではないかと感じました。 ●管理職や主任の積極的な声かけ、夜遅くまで働く職員の減少評価。
	4	学校は、教職員にとって働きたい職場となっているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 親睦会は、どこまでやるのか。有志の食事は、確認せずにお昼だけでいいのか。親睦会内で分からなくなっていた。 教員間もコミュニケーションを図ることから、働きやすい職場づくりに繋がっていきため、一人ひとりが心がけていく。 意欲を持って仕事に取り組んでいる教員が多い。 校務分掌が振り分けられているにもかかわらず、若手の間では気軽に声を掛け合っ一部で済ませてしまう傾向が見られるのは、気のせいでしょうか。 物の道理が伝わらない児童と保護者に疲労感を感じる。 自主的に研修に参加している先生方が多い。体育部の仕事量が多いと感じた。仕方のない部分も多いと思うが、もう少し分散することはできないかを感じた。また、行事に対する熱量や普段の職務の雰囲気はばらばらで少し不思議に感じることもある。 全体で決めたことを守れていない人もいるので、きちんと守ろうとしている方にとってはモヤモヤすることがある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●多数の子供達の指導は大変に神経を使う仕事だと感じます。又、親・保護者の対応にも気を使うことが多いと思います。教職員間のコミュニケーションが大事だと思います。より多くの時間をさいて連携をとってください。 ●どの先生も児童に熱意をもってお仕事をされていると思います。いつもありがとうございます。 ●新学期、多数の先生の笑顔があった。 ●意欲を持って取り組んでいる教員が多いこと評価。 ●決めたことを守れない教員がいること今後改善要。
				<ul style="list-style-type: none"> 自身の研究もまだまだ浅いし、継続性が保てないの難しい。適するビデオなどがあつたら見て見たい。 学び合いを取り入れ、どのように授業を行えばよいか様々なアドバイスを頂けることが多い年だった。 なるべく工夫はしているが、学習面での個人差が大きく、個への対応も多いため、なかなか難しい。 本校は、各教員が様々な特性を揃えた児童のために 		

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
教育課程・学習	5	学校は、学力向上に向け、児童にわかりやすく、工夫した授業をしているか。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> 多様な授業改善の方法、工夫をとっている。 ・研究授業やBrand New Dayの授業で、自習になる回数が多かったです。少しだけでも見るよう言われても、全体を通して研究も深まるので、教員の力量を高めること、自習の多さに矛盾を感じました。 ・1人ひとりに応じた授業改善を図っているが、最適でなかったこともあるためB。 ・日常的に授業改善や学力に合わせた指導を行うことができています。 ・桜小学校では授業改善した部分が児童の変容にわかりやすく現れる。今後も実態に応じた工夫をそれぞれの職員で行い、共有することで学校全体の授業の質の向上に取り組みたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・同じクラスでも授業の理解度によってグループ分けして各々の方に応じて進めていくのは非常に子供達のためになっていると思います。又、タブレットやモニターを使っての授業はより分かり易いと思います。新しい機材を上手に取り入れて質の向上が図られている。 ●Brand New Dayとは？ ・本校は各教員が様々な特性を抱えた児童の為に多様な授業改善の方法、工夫をとっていること評価。
	6	学校は、豊かな心を育む教育の充実を図っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年は「いじめ防止教室」や中学年は「子供安全見守り講座」を開き、児童とともに保護者にも理解を進めていた。低学年も「あおぞら教室」などで不審者対応教室を2学期の最後にいれるなどをするとよいと思う。 ・いじめ防止教室は、保護者の方からも来てよかったとお声を頂けた。 ・体験活動などが本校は少ないと感じる。コロナ禍であったこともあり、随分と地域や他者と関わる体験活動などが減ってしまっている。もう少し学年によって、自然や地域の方と触れ合う活動、体験活動などを取り入れても良いと思う。 ・体験活動を増やしていきたいが、難しいこともある。 ・授業参観で保護者と一緒に体験授業を展開していた。読書月間では、本を読みたくなる工夫を委員会を中心に頑張っていた。 ・道徳の授業では担任が隔週で入れ替わる形態を取ることによって授業の質が上がるだけでなく、学年経営としても有効であった。ゲストティーチャーを招く機会を増やすことで、子どもたちの目が学校という閉ざされた場から地域社会へと広がっていき、大変有用であると感じた。 	B]	<ul style="list-style-type: none"> ・読書は児童の心の豊かさを育て、人間性の向上をもたらします。活字離れの最近、学校での読書の習慣がこれから先、中学～高校でも根づいていくと良いですね。 ●以前はあったと思うが、朝の会時10分程度の「読書時間」があっても良いのではないかと。 ・高学年「いじめ防止教室」、中学年「子供安全見守り講座」、低学年「あおぞら教室」の開催評価。
	7	児童は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいるか。(市共通項目)	C	<ul style="list-style-type: none"> ・時と場合に応じた気持ちや挨拶はできるが、丁寧な言葉で話すことはできていない。また、学年だよりや連絡帳を見ず、忘れ物をしてくる児童も多い。 ・児童の方からあいさつを出来るようになってきた。以前より職員間も、時と場合に応じた適切な言葉をつかうようになってきた。 ・宿題、忘れ物に関しては、お家の人の協力を得られない家庭がある。 ・お手本になる子がいない。と言ってお手本の子をつくるのも難しい。結局、難しい。教師が言ってもなかなか継続しない。どうしたものか常々思う。 ・あいさつについて：目を見て朝の挨拶ができるようになってきている児童が増えている。が、『進んで』はまだ課題。 ・言葉遣いについて：大人に対する言葉遣いが課題。大人も常に丁寧な言葉遣いで話すことが環境作りになる。 ・あいさつを進んでしてくれる児童も多くいるが、まだできていない児童も多々いる。また、汚い言葉を使う児童が多々いると感じる。 ・児童から進んで挨拶をする姿が、校内で多く見かけるようになった。一方、地域の人への挨拶はまだまだ少ない。保護者の目が行き届いていない児童も多く、学用品がそろっていない、授業を進めるのに困ることがある。 ・あいさつ、言葉遣い、忘れ物は今後も指導し続けていく。 ・あいさつや話を聞くことに関して改善傾向に合うかと思いますが、まだまだ、伸びしろはあると考えます。教職員が共通理解共通行動でこれからも指導に当たる必要があると思います。 ・言葉遣いについても低学年からの継続した繰り返しの指導が必要だと考えます。 ・あいさつを返してくれる児童は増えてきたが、「進んで」の部分にまだ課題を感じる。 ・教師や大人への言葉遣いに課題を感じる。つい流してそのまま会話をしてしまうことが多いので、指摘してあげたい。 ・挨拶を進んでできる子が少ない。児童自ら挨拶できるようになるためにまずは、教員が率先して明るく声をかけ、児童と接する心がけていく。 ・家庭環境等に大きな要因がある場合が多いが、持ち物が揃わない児童がとても多い。用意するよう家庭に伝えても、用意することが難しい場合がとても多い。家庭によっては、子ども支援課など市と連携して家庭支援をしていく必要がある。 児童があいさつをしなくても、言葉遣いが悪くても、忘れ物が多くても、教員があきらめないで声を掛け続けようとして何年も過ぎていきます。 ・言葉遣いの改善には家庭の協力と環境の整備が必要であるが、インターネットの世界にまで干渉することは現実的に考えて不可能である。善悪の判断や正しい方を選ぶとする力を高めていく必要があると考える。 ・あいさつは積極的にできている。言葉遣いに課題があり、持ち物を揃えることができない児童も多くいる。 ・あいさつ、言葉遣い、忘れ物は、年々指導の効果を実感できなくなってきている。地道な指導を繰り返したい。 ・言葉遣いの悪い児童が多い。平気で軽く「死ね」「殺す」などの言葉が出てくる。 <ul style="list-style-type: none"> →その都度指導しているが、家庭の協力が大事だと思う。 ・忘れ物が多い、というよりも忘れ物をする児童がいることが当たり前になってしまっている。 <ul style="list-style-type: none"> →事前に連絡帳等で知らせているが、連絡帳を見て 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●登校時のあいさつは以前よりはるかに元気良く大きく出来る様になってきた。下校時のあいさつがもう少しはっきり出来ると思いいます。 ・登校時、児童にあいさつすると恥ずかしそうに返してくれず、大人が進んであいさつを見本をみせるのが大事なかと感じています。 ・一学期から比べると朝西門ではほとんどの児童があいさつをしてくれるようになった(声に出さなくても、頭を下げてくれるだけでその児童なりのあいさつだと思ふ)。 ●忘れ物が多い児童には家庭との連携も必要だが(親によっては無関心な人も居る)「忘れ物表」等で目に見える形をとってみてはどうか？ ●改善されてはきているが、保護者へのアンケートでも「あいさつ」「正しい言葉遣い」の評価が悪いのはまだ問題あり、学校及び糧での指導必要あり。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
	8	学校は、心身の健全な育成と体力向上を図っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 各担任の力量に任されている感じがする。マラソンカードや縄跳びカードを全体で取り組めるように早めに配布してほしい。 体育が得意でなくとも、好きな児童が多いと思う。年間をとおして、児童が積極的に取り組める授業を工夫している。 徐々に体育の授業、行事が変わってきている。例年通りではなく、より児童のためになるように考えられている。 休み時間子どもたちを外に出す際、先生も一緒に出たほうがよいと考える。 休み時間に外で遊ぶ児童が多くいる。また、体育にも積極的に参加している。食育に関しては、情報が錯綜しており、家庭にも伝えにくい状況がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 給食試食会を毎年開催することで保護者の食育への意識が高まり、結果として子どもへの食育につながるとおもいます。 食育に関して家庭には献立表以外にどのような伝え方をしているのか？ 年間をとおして児童が積極的に取り組める授業を工夫していること評価。
	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 今回、校内研修などで講話や授業を通して知ることができ、良かった。 通常級における配慮が必要な児童への支援が行き届いている。多くの工夫が感じられる。 今年度、学校研究が特別支援なので、理解が進んでいるように思う。 教師の『児童を見る力』『支援の方法を考える力』がUPしてきていると感じる。 研修の軸となっていて、毎回勉強になっているので良いと思います。 様々な研修で特別支援教育について多くのことを学べた。 学校研究のおかげでとても勉強になっています。 学校研究でもある、特別支援教育に本校は力を入れていると感じる。また、通級指導教室の充実もありがたい環境下である。 本校では、特別支援教育に対する教員や保護者の理解が進んでいると感じる。 特別支援を学校研究としているため、教室整備など児童の実態に応じて対応したクラスが多くある。また、支援級と通常級の交流も多く先生方の理解もあるため、支援級の児童も安心して交流ができています。 様々なことを定期的・計画的に行っている。 特別支援を中心に児童理解を学校全体で進めている。 本校の職員連携の核になっており、今後もより一層の充実を図りたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援の学級が多い様で教員のみなさんも大変だと思います。よく対応がされていると思います。 児童個々に合った細かい対応がされているように思う。 学校研究でもある「特別支援教育」に力を入れていること評価。
教職員	10	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事の根絶のために意欲的に取り組んでいるか。(市共通項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> 職場に関係がないような話をして親睦を深める場がほしい。 研鑽していると思う。 教職員の不祥事については、どの教員も意識を高く持っている。 倫理確立委員会を定期的に行っている。職員間で声をかけあっている。 マニュアルを個人に配布している。倫理確立委員会や生徒指導全体会以外にも職員内で情報が素早く周知することができており、対応を一本化ができています。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 問題が起きた時、教職員全体ですぐ取り組める様、いつもコミュニケーションを大切にしてください。 マニュアルの個人配布及び倫理確立委員会の定期的開催評価。
学習環境	11	学校は、環境美化に努め、温かさと潤いのある学ぶ環境づくりを組織的に進めているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童が汚い言葉などを使って話をしていると、教員が言い直す場面をよく見かける。 言葉遣い等を児童も私自身も見直して意識していきたい。 日頃から丁寧な言葉遣いを心掛けていきます。 教員自身の言葉遣いをお互い声を掛け合いながら言語環境を整えていきたい。 自分自身が正しい言葉遣いでない時もある気がする。 児童と教員の仲が良いので、言葉遣いが軽くなっていることがある。 言葉遣いは特に気を付けたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いつも掲示物が整理されていて気持ち良くみられると思います。学校全体も良く清掃されていると感じます。 いつも校内がきれいで気持ちが良いです。ありがとうございます。 毎朝教頭が学校まわりの安全確認をしながらゴミ拾いをされている。 正面昇降口の清掃用具はいつもきれいに整理されている。 正しい言葉遣いへの教員の児童への指導評価。
	12	学校は、安全で機能的な教育環境づくりを進めているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 危険なものは施設、手の届かないところに保管している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的によく整理整頓されていると思います。 低学年のカッターを使う授業に手の空いている先生が数人助っ人に入ったと聞き、素晴らしい協力体制だと感じました。 支援級の前の畑をもう少し有効活用してほしい。 学校の児童への安全管理評価。
家庭・地域との連携	13	学校は、開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っているか。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの古い情報は削除して更新する。 ホームページを定期的に更新しているが、他に活用する方法がないか悩んでいる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等で学校の様子や行事も分かり易いと思う。桜メールでの連絡も良いと思います。 コロナ時中止していた「昔のあそび」や「昔のおやつ(イモモチ等)」「泉町の祭り」等地域の人材を活用した授業があっても良いのではないかと？ ホームページの定期的な更新評価。 学校の地域町内会への「学校だより」「資源回収ご協力」の配布評価。
小中連携	14	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進しているか。(中学校区共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> 片柳小学校の研修の校内研修に参加させていただきありがとうございました。 生活の決まりについては、クラス間の認識にずれが出てきているので、定期的に確認する必要があると思う。 6年生は、週に1回部活動体験を取り入れてもいいのではないかとと思う。 定期的な小中連絡会で情報交換を行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動等を通じて中学校生徒との活動や協力的な行事を増やしてはどうでしょうか。 土曜日が休みの為、それぞれの体育祭などへの見学や参加はむずかしいと思うので、中学校の音楽祭(1年生の)に6年生が見学に行くことはできないか？(今年は平日だった)席数等の問題もあると思うが、文化会館までなら歩行可能、引率が必要なら保護者、地域に呼びかけてみてはどうか。 定期的な小中連絡会の開催評価。